

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2021 年度農業農村工学会大会講演会についてのお知らせ	66
○ 今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！ 2021” 応募締切 7 月 31 日	66
○ 改定 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	67
○ お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	67
○ 2021 年 4 月から新たな CPD 制度がスタート！ 2020 年度 CPD 記録の申請期限は【2021 年 6 月 30 日まで】です	68
○ 建設業法に基づく経営事項審査に CPD への取組み状況を新設！	68
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	68
○ 2022 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	68
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」 閲読者の氏名公表とご協力のお礼	69
○ 「農業農村工学会論文集」 査読者の氏名公表とご協力のお礼	70
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」 への投稿お待ちしております！	71
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020 年 7 月から 2021 年 6 月までの編集体制と編集事務局	72
○ 第 72 回関東支部大会の開催（第 1 報） 講演申込締切 7 月 30 日	73
農業農村工学会論文集 内容紹介	74
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	75
学会記事	76

第 89 巻第 6 号予定

展望：藤原信好

小特集：研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方

報文：開発途上地域における研究と求められる人材：進藤惣治ほか

報文：博士課程の学生との交流を通じた研究室の活性化：乃田啓吾ほか

報文：実践型教育の現状と産学官連携による人材育成の取組み：申 文浩

特別寄稿：小杉重順，辻 英樹，島本由麻，草光紀子，伊藤夕樹，長岡誠也，塚田泰博，泉 明良，周藤将司，

金子武将，岡本 健

技術リポート

北海道支部：ため池の耐震改修における概算工事費算定手法の検討：赤坂 浩ほか

東北支部：小水力発電における非灌漑期水利権の取得事例：佐藤光広

関東支部：伊達方農道整備における軟弱地盤対策工法の選定とその効果：鈴木大貴

京都支部：推進工法による底樋管の敷設と安全対策工事：中野千治ほか

中国四国支部：コンクリート表面の被覆塗装劣化に伴う塗替：田村英介ほか

九州沖縄支部：干潟排水対策施設「タイドプール」における維持管理上の課題と対策：山口信司ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2021年8月 31日～9月3日	大会運営委員会	2021年度(第70回)農業農村工学会 大会講演会	—	福島市	88巻12号 89巻1, 4号
2021年11月 21日	関東支部	第72回支部大会	—	宇都宮市	89巻5号
2021年11～12 月(予定)	京都支部	第78回支部研究発表会	—	富山県 Web形態	89巻4号

2021年度農業農村工学会大会講演会についてのお知らせ

すでにお知らせしましたように、2021年度農業農村工学会大会講演会は、福島大学食農学類において2021年8月31日(火)、9月1日(水)、2日(木)の3日間および現地研修会を3日(金)に開催します。

大会講演会参加の申込み(WEB登録)の詳細につきましては本誌第6号および学会ホームページの大会講演会 <http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/> をご覧ください。

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2021”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2021年7月31日(土) 17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2021年度のテーマ 「〇〇からみた農業農村」
※〇〇は投稿者が自由に単語を入れてください。
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2021, こりゃ映像, (農業農村))を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法 <http://douga-tec.com/?p=4974>
 - ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門 <http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
- <参考>こりゃ映像2020 結果(テーマ:農業用水)
- 最優秀賞:豊かな実りを育む水～水の守り人～
野洲川土地改良区 鍋家可捺
<https://youtu.be/KfTdAu6SY68>
- 優秀賞:コロナ禍最前線で働くみなさまへ～ハートの形をしたため池より愛をこめて
兵庫県篠山土地改良事務所 朝比奈潤二
<https://www.youtube.com/watch?v=NMdzSf1qKQI>
- 優秀賞:土地改良事業を契機とした新たな地域営農の展開 in 富山県三ヶ地区
富山県農村整備課 江蔵 拓
<https://www.youtube.com/watch?v=EoxnHW4FIVc>
- 優秀賞:農業用水路の安全対策～用水路事故のない地域づくりを目指して～
富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治
<https://youtu.be/716Z-c651Ts>

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の
閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、2021年1月以降、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/>) での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者(大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む)の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して(学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む)、下記 E-mail にてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2021年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

- ③ ①、②以外の分野および学際的・学際的に関する調査・研究の推進
 - ・上記①、②以外、たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術
- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
 - ・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
 - ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など
- ⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

2021年4月から新たなCPD制度がスタート！ 2020年度CPD記録の申請期限は【2021年6月30日まで】です

農業農村工学会技術者継続教育機構



農業農村工学会技術者継続教育機構では、2021年度からCPD制度の運用を一部変更しました。ついては、CPD記録の認定申請に関する変更点について、次のとおりお知らせしますのでご理解、ご協力をお願いします。

1. CPD記録の認定申請は実施日から翌年度の6月末までとなりました
2. CPD記録の認定申請と審査結果の確認はWeb画面か

ら行ってください

3. 「教育形態区分」「年間上限値」が一部変更になり、自己学習【x】を除き、すべての申請に証拠書類の提出が必要となりました
4. 「CPD取得一覧表」は、6月と8月にWeb画面へpdfファイルをアップロードしますので、各自でダウンロードをお願いします（印刷物での郵送はいたしません）

建設業法に基づく経営事項審査にCPDへの取組み状況を新設！

農業農村工学会技術者継続教育機構



国土交通省は、2021年4月1日に告示を改正し、建設業者に所属する技術者が審査基準日以前1年間に取得したCPD単位の平均値により評価する項目を経営事項審査に新設しました。農業農村工学会技術者継続教育機構の実績も採用されます。

詳細は下記国土交通省のホームページをご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/tochi_fudousan_kensetsugyo/const/tochi_fudousan_kensetsugyo_const_fr1_000001_00011.html

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集！！

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌5号掲載の問題は6月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2022年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2022年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学

の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 90 巻（2022 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2021 年 6 月 30 日

夏季 2021 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 90 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2022 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500 字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の

「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」 読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌企画・編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、2020 年 4 月から 2021 年 3 月までの一年間に読者にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、ご貢献の証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

（2021 年 3 月 31 日現在）

安瀬地 一作	安西 俊彦	安中 武幸	飯田 俊彰	石井 敦
伊藤 健吾	伊藤 俊輔	岩田 幸良	上田 達己	上田 裕二
宇波 耕一	遠藤 和子	大久保 天	大澤 和敏	大西 健夫
岡 直子	岡島 賢治	緒方 英彦	鬼塚 健一郎	鬼丸 竜治
角道 弘文	加藤 千尋	亀山 幸司	川口 清美	川口 聡史
北川 巖	木平 康介	木全 卓	木村 匡臣	九鬼 康彰
工藤 庸介	工藤 亮治	栗田 英治	小出水 規行	小林 勤
近藤 雅秋	齋藤 邦人	齊藤 忠臣	坂田 寧代	佐藤 周之
佐藤 健	島崎 昌彦	清水 克之	神宮 字 寛	進藤 惣治

杉浦未希子	鈴木純	鈴木哲也	清野修	宗村広昭
高橋直己	竹下伸一	田中邦彦	谷口智之	近森秀高
長野峻介	塚本康貴	土田百合子	土原健雄	都築慶剛
富森淳	友正達美	豊田裕道	中園健文	長野宇規
中村和正	中矢哲郎	西田和弘	西村伸一	西山竜朗
花塚康行	濱武英	東口阿希子	兵頭正浩	廣内慎司
深田耕太郎	藤澤和謙	藤原洋一	松島文也	松野裕
皆川明子	宮坂加理	宗岡寿美	村松陸宏	森吉田
森丈久	山崎由理	山下良平	横田木綿	吉田武郎
若杉晃介	渡邊和真			

「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集企画・編集委員会では、査読者への感謝の意を表すべく、2020年4月から2021年3月までの一年間に査読にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、ご貢献の証しとさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(2021年3月31日現在)

浅野勇	東淳樹	阿南光政	有吉充	飯田俊彰
飯田訓久	石井敦	石井将幸	石神暁郎	石川雅也
石黒覚	泉智揮	伊藤夕樹	稲垣仁根	井上一哉
芋生憲司	岩田幸良	上野和広	内川義行	遠藤和子
大久保天	大澤啓志	岡澤宏博	緒方英彦	小川茂男
小田晃	柿野亘	片平卓	金沢智彦	金山素平
神山惇	亀山幸司	木全卓	木村匡臣	九鬼康彰
工藤庸介	工藤亮治	國枝正	久保成隆	栗田英治
栗原良樹	向後雄二	郷古雅春	越山直子	小林秀一
小林範之	小林幹佳	斎藤広隆	酒井俊典	坂田賢
佐藤周之	佐藤泰一郎	澤田豊	重岡徹	柴田俊文
島本由麻	清水克之	清水夏樹	周藤将司	庄司浩一
正田大輔	莊林幹太郎	白木秀太郎	鈴木純信	鈴木拓郎
鈴木哲也	鈴木麻里子	高松利恵	竹内晴智	竹下伸一
竹村武士	武山絵美	多炭雅博	谷口智之	千葉克己
長野峻介	辻本久美子	徳本家康	中島正裕	中田達篤
中野恵子	中村公人	中矢哲郎	永吉武志	浪平竜
成岡淳子	西田和弘	西村伸一	西村拓英	西山邦彦
西脇洋一	登尾浩助	長谷川雄基	濱武英爾	濱上伸介
林田孝寛	原阿希子	原口浩樹	原科幸正	治多研
東住豊一	廣瀬裕一	肥山祐平	兵頭耕太郎	平松信二
廣川智紀	藤田信夫	廣野正幸	深田洋一	福田鉄朗
星川圭介	堀口勝	藤原滋哉	松井宏之	松本輝仁
丸居篤	溝口勝	皆川明子	宮津進	宮本丈久
向井章恵	武藤由子	毛利栄充	森泉利嗣	森岡賢
森洋司	森下祐司	森下良平	諸山中	山本清仁
山路永	山下秀和	吉川夏樹	山田貢士	山田修一郎
弓削こずえ	吉岡明彦	吉渡部	吉田王	
吉永育生				

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第 89, 90 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第 89 巻第 6 号	研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方 (仮)	終了
7 号	大会特集号 (東北支部)	公募なし
8 号	記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割 (仮)	終了
9 号	土地改良区に期待される役割、その支援策と先進的な取り組み事例 (仮)	終了
10 号	農業農村工学におけるデジタルトランスフォーメーション (仮)	終了
11 号	政策のグリーン化に向けた農業農村整備の新たな展開 (仮)	5月10日
12 号	新たな土地改良長期計画と新たな農業農村工学の役割と技術 (仮)	6月10日
第 90 巻第 1 号	大学改革を踏まえた農業農村工学分野に関する今後の大学の展開方向 (仮)	公募なし
2 号	—	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先 (要旨および本文原稿など)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mail の添付ファイルにてお願い申し上げます。

第 89 巻第 11 号テーマ「政策のグリーン化に向けた農業農村整備の新たな展開」(仮)

グリーンインフラは、アメリカで発案された社会資本整備手法で、自然環境が有する多様な機能をインフラ整備に活用する考えを基本にしています。一方、農業農村整備における多面的機能の増進や生態系への配慮など日本においては、1990年代後半から2000年代初頭より自然環境の多様な機能を考慮する位置づけで農業農村工学によるインフラ整備が実践されてきたと考えられます。グリーンインフラの定義は、社会資本整備などにおいて自然環境の多面的機能などの積極的な活用がグリーンインフラの目的であると考えられます。2015年8月に閣議決定された「第二次国土形成計画」でグリーンインフラが政府文書において初めて定義されました。その後、2019年に国土交通省は、「グリーンインフラ推進戦略」をとりまとめ、社会資本整備や土地利用などのハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組みを目指しています。

また、農林水産省では、2020年秋より、「みどりの食料システム戦略」の構築を目指し、持続可能な食料システムの構築の必要性などから、持続的生産体制の構築、環境負荷軽減および持続可能な農山魚村の創造などの取り組みの推進を目指しています。

農業農村整備は、このような政策のグリーン化に向けた考えの一部をすでに事業に取り入れ、推進してきた長い実績があると考えられます。さらに、農地整備、中山間地整備および農村地域の住環境整備などにこれらの手法を新たな視点、コンセプトとして活用することも有効であると考えられます。

本小特集では、政策のグリーン化に向けて、これまでの農業農村整備における計画・設計・整備手法およびその課題、本手法を取り入れた新たな技術開発の成果や今後の展開方向に関する報文を広く募集いたします。農業農村工学の多数の分野からの関連の報文の投稿を期待します。

第 89 巻第 12 号テーマ「新たな土地改良長期計画と新たな農業農村工学の役割と技術」(仮)

2021年3月に閣議決定された新たな土地改良長期計画では、わが国の活力ある農業・農村を次世代につなぐため、農業農村

整備事業が果たすべき役割などを整理しつつ、「新たな食料・農業・農村基本計画」に加え、「国土強靱化基本計画」などの

上位政策を踏まえた内容が盛り込まれました。その基本的な視点は、①人口減少下で持続的に発展する農業の振興、②多様な主体が住み続けられる農村の振興、③農業・農村インフラの持続性・強靱性の強化の3本柱です。

さらに、本長期計画を技術面から推進する「農業農村整備に関する技術開発計画（現行、平成29年4月策定）」も令和3年度前期の改定に向けて検討がなされています。この技術開発計画では、特に、従来の都市一極集中型の居住形態や人が密集する働き方からの転換を促し、テレワーク、遠隔操作等の技術のニーズを高めています。また、近年のデジタル技術は急速に発展しており、農業農村整備事業の実施に当たっても、スマート農業に代表される農業のデジタルトランスフォーメーションにより工程そのものを大きく変え、働き方の改善を含め生産性を高めていくことが必要となっています。

また、温暖化による気候変動、大規模自然災害の増加、農業由来の温室効果ガスの排出、生産基盤の脆弱化や地域コミュニ

ティの衰退、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした生産・消費の変化が挙げられ、こうした課題への対応が一層重要になっています。

このような状況に対応するためには、農業・農村の生産力の向上と持続性の両立をイノベーションで実現していくため、脱炭素・環境負荷軽減の推進、イノベーション等による持続的生産体制の構築、持続可能な農山漁村の創造等に資する技術の開発を指向する必要があります。

そこで、本小特集では、大きな社会の転換点に立ち、土地改良事業の政策や技術開発の将来を展望し、策定された新たな土地改良長期計画などを土台にして、将来の農業農村工学の責務や役割についての報文を広く募集します。なお、あと8年後の2029年には、学会発足から100年の歴史的な節目を迎えますので、長期的な農業農村工学の展望に関する報文も歓迎いたします。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌」原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター（IF）は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）

- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

- ・ **Editors** 11カ国から20名
- ・ **Editorial Advisors** 29名
- ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural
Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- ・ **Managing Editors**
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Masayuki FUJIHARA**
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- Dr. Eunmi HONG**
School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea
- Dr. Toshiaki IIDA**
Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan
- Dr. Kuo-Wei LIAO**
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Soji SHINDO**
Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・ **Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural
Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第72回関東支部大会の開催 (第1報)

1. 日時

支部大会講演会, 講習会, 情報交換会
2021年11月12日 (金) 時間未定

2. 場所

支部大会講演会, 講習会, 情報交換会
ホテル ニューイタヤ
〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り2-4-6
(JR「宇都宮」駅西口より徒歩約5分)
TEL : 028-635-5511

3. 参加申込み (予定)

- (1) 講演会, 情報交換会
参加申込締切日 : 2021年8月27日 (金)
- (2) 講演申込み

申込締切日 : 2021年7月30日 (金)

原稿締切日 : 2021年8月20日 (金)

4. 問合せ先 (開催県事務局)

栃木県農政部農村振興課技術調整担当 荒川, 田邊
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
TEL : 028-623-2282 FAX : 028-623-2337

5. その他

詳細は、本誌および栃木県農政部農村振興課のホームページに掲載予定です。

新型コロナウイルスの影響により開催形態を変更する場合があります。変更は決定次第、本誌・メールマガジン・学会Webサイト等で案内いたします。